

## 平成24年度における施策評価

## 施策評価調書

政策コード	11	政策名	生活基盤の整備			
施策コード	2	施策名	災害に強い県土づくりと社会資本の長寿命化			
幹事部局コード	8	幹事部局名	建設部	担当	建設政策課 企画・広報班	
評価者・実施日	1次評価（建設部長）		平成24年8月3日			

## 1 施策の方向性（必要性と目的）

近年の異常気象や地震により発生した水害、土砂流出による災害等から人命・財産を守り、安全で安心な地域をつくるため、土砂災害防止施設や河川、海岸の整備など、ハードによる県土保全対策に加え、危険箇所の周知や警戒避難体制の整備などのソフト対策を推進するとともに、地震による被害を少なくするため、建築物の耐震化の促進を図ります。

また今後、老朽化した社会資本の割合が急激に増加することを踏まえ、社会資本を計画的・定期的に点検し、致命的な欠陥が発現する前に必要な補修を行う予防保全的な維持管理の導入を進め、老朽化した施設も含め社会資本ストックの有効活用を図っていきます。

## 2 施策の状況

## (1) 施策目標及びその達成状況

●施策目標(評価指標)		基準値	年度	H22	H23	H24	H25	備考
		年度						
①	浸水被害対策戸数	1,585	目標値	2,514	3,714	4,282	4,841	
		H19	実績値	2,499	2,566			
	河川砂防課調べ	—	達成率	99.4%	69.1%			
②	保安林の整備面積(累計)	26,173	目標値	35,436	38,476	41,516	44,556	
		H19	実績値	34,603	35,213			
	森林整備課調べ	—	達成率	97.6%	91.5%			
③	特定建築物の耐震化率(累計)	71	目標値	79	82	84	86	
		H18	実績値	78	84			
	建築住宅課調べ	—	達成率	98.7%	102.4%			
④	長寿命化対策実施橋梁数(累計) (単位:橋)	0	目標値	56	106	163	227	
		H21	実績値	58	84			
	道路課調べ	—	達成率	103.6%	79.2%			
達成度				C	C			

達成度 A:「全て達成」 B:「半分以上達成」 C:「達成が半分未満」 D:「全て未達成」 E:「その他」

## (2) 施策の推進状況

## ①土砂災害防止施設、河川、海岸の整備

## ■取組内容

- 河川整備により、浸水被害から守られる戸数の着実な増加を目指す。
- 近年洪水被害が多発している都市河川へ優先的に予算配分を行い、計画的な進捗を図っていく。

## ■取組の成果

- 浸水被害対策戸数は平成23年度末で2,566戸を達成しているが、目標値を大きく下回っている。

## ■課題と今後の推進方向

- 河川毎の治水上の必要性、整備効果等を明確にし、計画的に改修を進めていく。
- 優先度、緊急度から、重点投資により事業効果の早期発現を図っていく。
- 市街地での改修が多く、狭隘な箇所も多いため、ボトルネック部を解消し、早期に効果を発現させていく。

## ②暮らしを守る森林づくり

### ■取組内容

・水源のかん養、災害の防備、公衆の保健等、森林の有する公益的機能の発揮が特に要請される中、保安林機能の十分な保全を図り、安全で安心できる豊かな暮らしの実現を目指すことを目的として保安林の整備を推進した。

### ■取組の成果

・水源のかん養や災害の防備など、保安林の公益的な機能が十分に発揮できるよう、間伐を主体に植栽と複層林施業等を組み合わせて、610haの森林の整備を実施した。

### ■課題と今後の推進方向

・公共事業を取り巻く厳しい財政事情や社会・経済情勢の変化により予算の確保が厳しくなっている。また、近年頻繁に発生している集中豪雨等により、治山ダム工・防潮護岸工等の施設整備を限られた予算の中で優先的に実施することとなり、保安林整備面積の減少が余儀なくされている。

・県内の海岸部における松くい虫被害による飛砂防備機能の低下が懸念されているが、東日本大震災や日本海中部沖地震時に海岸保安林の津波に対する被害軽減効果が確認されており、防潮護岸工と緑の防波堤の海岸林を組み合わせた施設を早急に整備する必要がある。

・今後は、荒廃森林や被災のおそれの高い地区などを優先し、計画的な整備を推進していく。

## ③建築物の耐震化の推進

### ■取組内容

・秋田県耐震改修促進計画に基づき、県有特定建築物や民間特定建築物の耐震化の推進を図っている。  
・市町村耐震改修促進計画の策定を促し、国庫補助活用可能な状態とし、市町村所有特定建築物の耐震化を進めている。  
・私立学校等の耐震診断補助を行い、私立学校等特定建築物の耐震化を進めている。

### ■取組の成果

・平成23年度末現在、学校を除く県有特定建築物の耐震化率は89%となっている。  
・県立学校については、統合・改築計画があるものを除き今年度中に耐震化を完了する。  
・市町村耐震改修促進計画は平成23年度末現在、19市町で策定を終えている。

### ■課題と今後の推進方向

・景気が冷え込んでいるため、建て替えや耐震改修を行う件数が減少しており、民間特定建築物の耐震化率が伸び悩んでいる。

・民間特定建築物の耐震化を促進するため、私立学校等以外への耐震診断補助、耐震改修補助などの検討を進める必要がある。

## ④社会資本の長寿命化

### ■取組内容

・県が管理する橋長15m以上の橋梁について、従前の対症療法型修繕（損傷が大きくなってから事後的に対策する）から予防保全型修繕（損傷が軽微なうちに予防的に対策をする）に転換することにより、維持管理コストの縮減を目指すこととし、橋梁長寿命化修繕計画を策定し、計画対象橋梁の優先順位をつけ、対策を実施していく。

### ■取組の成果

・対策は優先順位の高い橋梁から着手していることから、損傷が重大な橋梁が対象となり完成に時間を要している状況であるが、着実に完了数を増やしており老朽化した橋梁の健全性を確保している。

### ■課題と今後の推進方向

・今後も長寿命化修繕計画の実施に係る必要予算を確保し、目標年度（平成30年度）までに完了できるよう対策を進めていく。

### 3 評価

#### (1) 施策幹事部長による1次評価

評価結果	<b>●施策の推進状況</b> ・「浸水被害対策戸数」、「保安林整備面積」、「長寿命化対策実施橋梁数」については、目標数値をわずかに下回っているが、「特定建築物の耐震化」については目標数値を上回っており、施策全体としては概ね順調に推進されている。 ・「長寿命化対策実施橋梁数」は優先順位が高く、損傷が重大な長大橋梁の対策から始めているため、当初は達成率の増加に時間を要したものの、着実に推進されている。
概ね順調	<b>●課題と今後の推進方向</b> ・河川や保安林の整備、建築物の耐震化、橋梁の保守は、人々の暮らしを守るために必要不可欠であり、引き続き、優先順位を明確にしながらか、着実に推進していく必要がある。 ・橋梁の長寿命化修繕計画は、既設橋梁の補修とともに併せて耐震補強を進めていく計画であるから、今後も必要予算を確保して、対策を着実に進めることで県民の安全安心確保に努めていくこととする。

#### (2) 企画振興部長による2次評価

評価結果	<b>●施策の推進状況</b>
	<b>●課題と今後の推進方向</b>

#### 4 評価結果の反映状況等（対応方針）

--

#### 5 政策評価委員会の意見

--